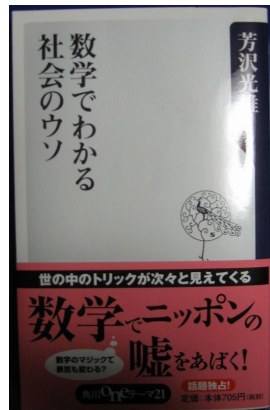


連載：読書のすすめ (第9回)

「数学でわかる社会のウソ」
(角川書店 角川 one テーマ 21, 芳沢光雄 著, 2007)



本号突撃インタビューゲストである芳沢先生の数多い御著書の最新刊の中の1冊です。突撃インタビューの記事を読んでも感じる事が出来ると思いますが、本書は先生の数学に対する情熱を肌で感じる事が出来る1冊です。

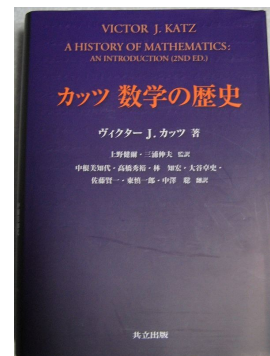
「第1章 数学で分かる社会のウソ」では数学の授業を行う上で役立つ内容が盛り込まれおり、授業実践に役立つと思います。

「第2章 数学が変えるビジネススキル」では教員が仕事をしていく上において役立つ情報や効率的な仕事の進め方がわかると思います。

「第3章 数学教育を見直す」では芳沢先生の教育活動の原点を感じ取ることが出来ると思います。本号の突撃インタビューと併せて読んで頂ければ尚一層数学教育に対する先生の情熱が伝わってくると思います。

『数学が日本を救う!』(綜合法令出版, 1995)で芳沢先生の存在を知った筆者は一貫して「数学は重要だ。数学を学ぶことは役に立つのだ。」と語られる先生の御著書に何十冊と接することで、数学の教師としての誇りを持つことが出来、生徒にも数学を学ぶことの大切さ、素晴らしさを伝え続けることが出来るようになったと思っております。先生に感謝申し上げますと共に皆さんにも是非一読をお薦めする次第です。

「カツ 数学の歴史」
(共立出版, ヴィクター・J・カツ著, 上野健爾・三浦伸夫 監訳 中根美知代 他翻訳, 2005)



本書はアメリカの数学史の教科書として編まれたものの第2版として日本語に翻訳されたものです。小・中・高等学校の教師を目指す大学3, 4年生を対象とした約千ページの大著です。それだけに値段も19,950円(税込み)と高価です。筆者も清水の舞台から飛び降りるつもりで購入した。

古代から順を追って20世紀までの数学発展の歴史が丁寧に記述されています。また、教員志望者を対象にして書かれた数学史であるだけに、ある程度かみ砕いた表現で書かれている箇所も多く、この本の中身をそっくり授業で再現させることも可能であると思われまます。

また、ヨーロッパ数学の流れだけではなく中世の中国とインド(第6章)イスラームの数学(第7章)といった章もあり、数学の歴史を学ぶ上でなくてはならない部分も補われています。更に、間章としてアメリカ、アフリカ、太平洋諸地域の数学についても語られています。

索引も事項編、人名編、著書編に分けられており充実しています。また、随所にコラムがあり、数学用語、数学者の伝記や年表がコンパクトにまとめられています。残念ながら日本の数学についてはほとんど紹介されていませんが、それでも関孝和の伝記はコラムに書かれています。

この本は机上版の辞書と同じくらいの大きさなので持ち歩くことは難しいけれど、図書館にでもあったら便利な本です。

【編集部】